

第1層協議体における地域づくりについて

前回のグループワークの振り返り①

【函館市の目指す姿】

項	内容
人	・ 子供・若者・高齢者が気軽に話し合え、共存できるまち
	・ 若者・高齢者が学んだり仕事ができる環境があるまち
	・ 若者にとって魅力的なまち
	・ 男性が活躍できるまち
	・ 仲間づくりが安心してできるまち
生活	・ 公共交通が充実していて、行きたいところに行きやすい、車が無くても便利なまち
	・ 雪かきがスムーズで、冬でも楽しく遊ぶ・集うことができるまち
	・ 自由に集える場所（サロン、運動できる場、遊び場等）があるまち
	・ 生活していて困ったことの相談先が分かるまち
気持	・ 困っている人がいたら、近所や地域の人に助けてもらえるまち
	・ 「何かやりたい」という気持ちを拾ってくれるまち

前回のグループワークの振り返り②

【実現のため「私」や「地域住民」ができること】

項	内容
ボランティア	・ ボランティア団体に加入または新たに作る
	・ 商店街や学校との連携による声かけ等のボランティア
	・ 自身の力を生かした助け合い（電球交換，雪かき，包丁とぎ，大きな家具の移動，乗り合い等）
地域活動	・ 子供や若者の町会活動への参加
	・ 隣の人との声かけや交流など近所付き合いの復活
	・ 気になる行事やイベント，地域で話し合う場に参加し，ネットワークを構築する
	・ 子供を高齢者と関われる場に連れ出し，自分から高齢者に接しているところを見せてあげる
	・ 地域から有望な人材を指名し，それらの組織体を作る
気持	・ 困っている人がいたら助ける・意識する
	・ 自身のやれることを発信する
その他	・ 趣味を通じて色々な年代と関わりを持つ
	・ 外から見た函館の良さを発信する
	・ 函館でお金を使う
	・ 起業する

前回のグループワークの振り返り③

【実現のため、協力連携などが必要になってくること】

項	内容
会社 (企業)	・ 交通会社（バス会社・タクシー会社）との連携（乗り合い車両を地域で走らせる等）
	・ おもちゃメーカー
	・ 地域で頑張っている商店
	・ 市内外の一般企業（企業が少ないので企業誘致も行う）
	・ 一般企業との関わり
	・ 居酒屋（ボランティアした方へビール100円券配布みたいなもの）
団体・機関	・ シルバー人材センター
	・ 医療機関との連携
	・ 町会，児童館（子供とお祭りを一緒に行うなど多世代交流）
	・ 他の町会との交流（交流の中でモチベーションが高まる）
	・ 市役所・行政機関（活動費の支給，活動費の増額）
	・ 小中高との連携（「地域について考える」カリキュラムの導入など）
	・ 他機関・他団体と繋がり人材不足を解消
人	・ 身近なおじいちゃん・おばあちゃん達
	・ 40代～50代の方との連携
	・ 個人情報の共有

前回のグループワークの振り返り④

【実現を難しくしていること（今後に向けた課題など）】

項	内容
人	・ 仕事のため日中の活動ができない
	・ 少子化
	・ 制度等への無関心, 無気力
	・ 若い人の働く場所が無い
	・ 新しい人が入ってこないため, 地域の担い手が高齢化している
	・ 埋もれている人材の発掘を行う必要がある
	・ 保守的な現状で満足, 自分がやりたくない
連携	・ 繋がりたい時どこの誰に連絡すると良いか分からない
	・ 協力連携する場, 集まりが少ない, あっても分からない
	・ 縦割り
	・ 色々なことでマッチングが上手くできていない
	・ 学校との連携の方法が分からない
移動	・ 外出時の助け合いをしたくても事故のリスクがある
	・ 交通の便が無く集いの場に行けない
情報	・ 各団体の動きを知るなど, 情報を入手する仕組み
	・ 個人主義が強くなりプライバシー重視で, 個人情報保護の取り扱いが難しい
資金	・ 活動するためのお金が無い (市からの予算支給が無い, 市の予算に限りがある)

協議体の全体像について

第1層協議体

助け合いを
広めるための
全市的な地域づくり

地域ケア全体会議

高齢者を支える
全市的な地域づくり

SC
連絡会

A圏域の
課題

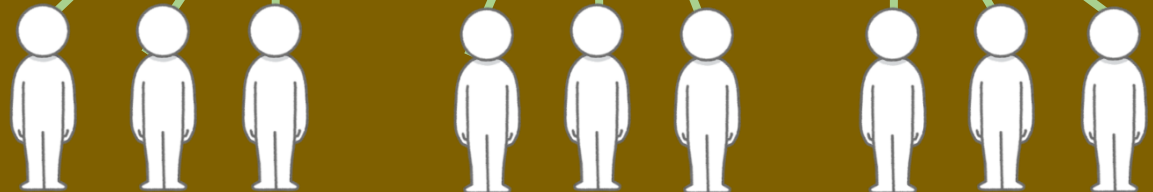
B圏域の
課題

C圏域の
課題

第2層協議体

(地域課題を検討する地域ケア会議)

住民の助け合いを
広める際に、壁に
なっていることを出し
合う。そのなかで、
全市的に手立てや
仕組みが必要で、
第1層協議体に
力を借りたいことを
まとめている。



個別ケースを検討する地域ケア会議